

32 歳

# 「大造じいさんとがん」の 指導の原点

東京都江東区立東雲小学校 小宮孝之

## 1 「分析批評」の定義づけを確認する

- ・アメリカで考案され、日本では教育大で研究されたのが始まり。
- ・研究文献 (1) 「批評の文法」(井関義久著 都立上野高校授業記録)  
(2) 「文学理論」(ウェレック、ウオーレン共著)  
(第10巻学級経営編より)

## 2 初期の指導

第5学年6月の向山実践

- ・「白いぼうし」でのトレーニング  
→ 「視点」(話主がどこから見ているのか)の学習
- ・「場面の展開」「あらすじ」「モチーフ(中心問題)」「事件の分析」「視点」「登場人物・人物の関係」「イメージを表す言葉」「仮主題・主題」「全体の図示」の指導  
(第10巻学級経営編より)

## 3 「大造じいさんとがん」の授業(1975年10月24日)

- ① ねらい「主題の読み取り」(中心人物を誰とするか)

中心人物	考えられる主題
残雪	・頭領の威厳
大造じいさん	・リーダーの責任
わたし	・残雪への思いやり ・残雪の勇気への感動 ・大造じいさんの残雪への感動と、そうした大造じいさんへの“わたし”の感動

大造じいさんと残雪	・生存競争 ・生存競争の中の敵への感動
-----------	------------------------

## ② 主題の追求のための手だて（「角度」）

- A：登場人物の関係  
B：社会との関係  
C：語り手の視点  
D：中心人物

## ③ 指導計画（全6時間扱い）

- 第一次「全文通読」 (1)  
第二次「作品の構成の理解」 (2)  
第三次「主題の追求」 (3)

## ④ 「中心人物」を考える授業の展開

- (1) 中心人物が誰かを発表する。  
(2) 中心人物がこれだと思ふ理由を発表する。  
(主題、視点との関係に整理させた論争)  
(3) 意見のちがいについて整理する。

(第2巻授業編より)

## 5 「もちもちの木」の授業（1976年2月26日）

## ① ねらい

分析的な観点

↓ 「イメージを表す色・語句」「視点」 → 主題へ迫る手がかり  
分析的にどこまで読み取れるかの調査

## ② 指導計画（全2時間扱い）

第一次「全文通読と討論」

課題「豆太にしか見えなかった木はどれですか」

第二次「調査・作文」

(ア) 豆太にしか見えなかった木はどのページの木か。

(イ) 26、27ページの絵と28、29ページの絵の違いはどうして生ま

れたか。

(ウ) イメージを表す語句、色を書け。

(エ) 批評しなさい。

### ③ 調査結果

(ア) : 豆太の視点を明らかにする質問 (主題と関係)。

心象風景と写実風景の違いが明確にできるか。

・わからない児童……………4名

(イ) : 心象風景と写実風景のちがいは「視点」の学習に支えられる。

・理解、解釈できた児童……………32名

・不明……………1名

・まちがえた児童……………5名

(ウ) : 「イメージ」という事の指導は一度だけおこなっている。

(色が何かを明示する事にはふれていない。)

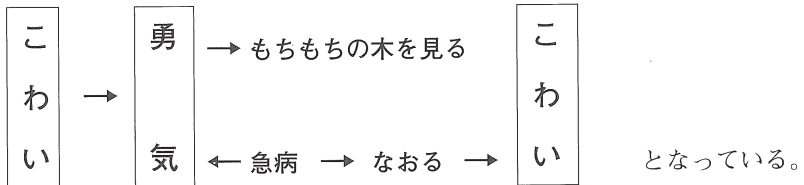
・1つでも見つけられた……………24名

・見つけたが解釈が不明……………3名

・イメージについて分からなかった……………11名

(エ) : 評論文 (児童の作品例)

「一度にもちもちの木を真正面から見て、それからまたくじけてしまった所がどうにもおもしろい。構造的に考えれば



どうにもおもしろい。」

(第2巻授業編より)

## 5 「母ぐま子ぐま」の授業

### ① ねらい

- ・主題の読み取り (表現に依りつつ考える)
- ・構成の理解

## ② 主題について

- ・ 作品を、ある視座から追求し、それが表現を根拠としている限りはすべて主題として認める。
- ・ 主題の仮定
  - A. 「生存競争」にかかわるもの
  - B. 「母ぐまの愛情」にかかわるもの
  - C. 「本能」にかかわるもの
  - D. 「動物への思いやり」にかかわるもの
- ・ 作品をさまざまな角度と深度から、表現に依りつつ追求する授業こそ、児童の問題意識を生じさせる。

## ③ 指導計画（全6時間扱い）

- 第一次「全文通読、仮主題の決定」 (1)
- 第二次「作品の構成理解」 (3)
- 第三次「主題を表現に依りつつ追求」 (2)

## ④ 「主題」を考える授業の展開

- (1) 主題が何であるかを発表、討論。  
(論争がこわれぬよう配慮する。)
- ・ 母ぐまの愛情……………事件、視点
  - ・ 生存競争……………人物関係、立場
  - ・ 本能のすばらしさ………事件、視点
  - ・ 動物への思いやり………作者の視点
- (2) 主題を視座ごとに整理。

## ⑤ 「視点」を考える授業の展開

- (1) 文の視点をノートに図示。
- (2) 黒板に書いて説明。
- (3) どの考えが良いと思うか討論。  
(論拠を文章表現に求めるよう留意。)
- (4) 視点のまとめ

(第2巻授業編より)